

みえメディカルバレー構想第4期実施計画について

1 要 旨

みえメディカルバレー構想は、医療・健康・福祉産業（ヘルスケア産業）を戦略的に振興することにより、本県の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と集積を図るとともに、医療・健康・福祉に関連した質の高い製品やサービスを供給できる地域づくりをめざして、平成14年2月に県が策定し、同年4月から「みえメディカルバレー構想」として、様々な事業を産学官民で実施しています。

本構想を推進するため、みえメディカルバレー推進代表者会議*（会長：三重大学学長）が主体となって、第1期実施計画（平成14～19年度）、第2期実施計画（平成20～22年度）及び第3期実施計画（平成24～27年度）を策定し、産学官民が連携して事業を展開してきました。

これまで取り組んできた基盤や成果をもとに、更なる展開を図るため、第4期実施計画を策定し、平成28年度から事業を展開していきます。【別図】

※みえメディカルバレー推進代表者会議

三重県内の7大学3高専の学長、医療関係団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、作業療法士会）の会長、企業の代表者、県等で構成する産学官民の会議体組織。みえメディカルバレーを推進する事業の基本方針や関係機関、組織の調整及び連携に関することを協議。

2 第3期実施計画の取組

第1期、第2期の取組で確立したさまざまなネットワーク等の基盤のもと、第3期実施計画を「成長期」として位置付け、「ライフイノベーションの推進」に注力し取組を進めてきました。特に平成24年7月、国から「みえライフイノベーション総合特区」の指定を受け、研究開発支援拠点として県内7カ所に設置したM i e L I P（みえライフイノベーション推進センター）を核に、製品やサービスの開発に取り組み、多くの成果が生み出されるとともに、県内医療機関の医療情報を収集した「統合型医療情報データベース」が構築されました。

今後は、M i e L I Pや統合型医療情報データベースを活用した新たな医薬品や医療機器等の開発が期待されています。

3 第4期実施計画（案）の概要

(1) 実施期間

平成28年度から31年度（4年間）

(2) めざす姿

第3期までに確立した基盤やM i e L I P等研究開発支援拠点を基に、成長産業であるヘルスケア産業に対して、攻めの取組を行うことにより、第4期実施計画を新たな製品やサービスを次々に創出させる「開花期」として位置付け、めざす姿を「みえヘルスケアインダストリー4.0」と称して取組を進めます。

めざす姿：みえヘルスケアインダストリー4.0※

高齢化に伴う多様な健康需要に対して、本県が持つ高度なものづくり技術や人材など地域が保有する豊富な資源、産学官民金連携の支援基盤等の強みを発揮し、ライフイノベーションを推進することにより、ヘルスケア分野の優れた製品・サービスが創出され、県民の豊かさに貢献しています。

※「みえヘルスケアインダストリー4.0」とは、産業の大きな変革の時期を迎え、みえメディカルバレー構想第4期実施計画を着実に推進することで、第4次産業革命にも対応しつつ、メディカルバレーの取組を開花させるイメージを表現したものです。

(3) 基本方向

めざす姿を実現するため、第3期実施計画での課題や企業等のニーズをふまえ、次の3つの基本方向を柱として戦略的な取組を展開します。

- ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化
- 医薬品・化粧品・医療機器・食品等産業の競争力強化
- 新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出

(4) その他

今年度策定される「みえ県民カビジョン・第二次行動計画」、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版」や「みえ産業振興戦略」の改訂との整合を図るとともに、現在、国が検討している総合特区制度の見直しに伴う「みえライフイノベーション総合特区」の次期計画を見据え、第4期実施計画の策定を進めています。

4 今後の予定

3月16日（水）みえライフイノベーション総合特区推進本部会議にて報告

29日（火）みえメディカルバレー推進代表者会議にて、実施計画を確定